

大地の生い立ち・美濃加茂④

化石の宝庫・中村累層

蜂屋火山の活動によつて形成された美濃加茂盆地は、活動が終わつた千九百万年前ころになると、穏やかな盆地になり浅い湖が広がりました。

そこには、河川がゆつたりと流れ込み、砂岩・泥岩・礫岩・亜炭などが堆積し、その厚さは約百メートルに達しました。

この地層を中村累層といい、亜炭や化石が豊富なことで知られます。可児市西可児、御嵩町、木曽川河床などを代表に、美濃加茂盆地に広く分布しています。当時は日本海もなく、日本列島は大陸の東端に位置していました。そして、



中村累層の地層（西可児）

約1,900万年前の美濃加茂盆地



この湖周辺には、豊かな植物が茂り、多くの動物が生息していました。そのため、そこに堆積した中村累層は日本有数のほ乳動物化石や豊富な植物化石が産出します。

（博物館専門委員・鹿野勲次）

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成五年八、九月分）

○武具一点

（山田美知子さん／下米田町）

○もみすり臼など 十八点

（大畑邦満さん／本郷町）

市社会教育課博物館建設係
（内線二六二）まで情報をお寄せください。